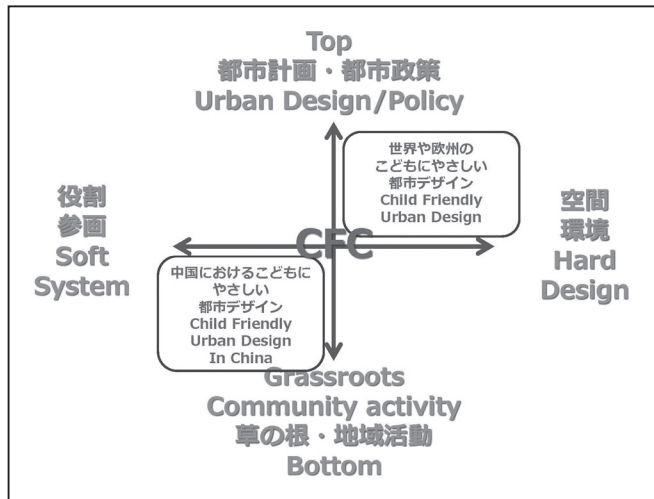
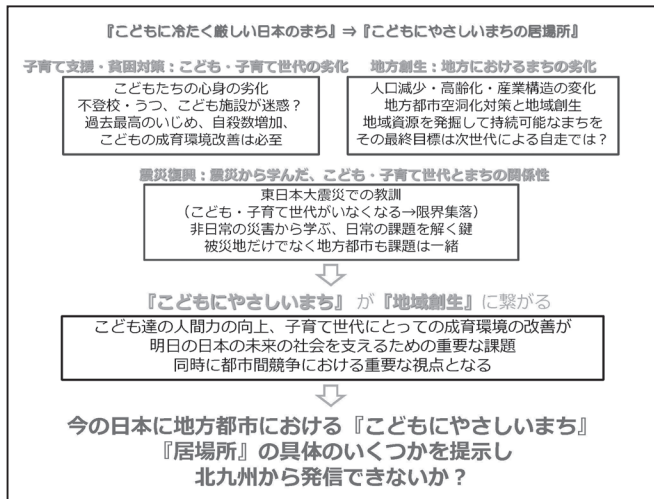


大会提言

大会では、テーマを【こどもにやさしいまちの居場所】とし、「こどもにやさしいまち CFC:Child Friendly Cities」の具体とは何を意味し、我々はどのような「居場所」をこどもたちに用意するべきで、そのためにどのような環境や都市デザインが必要なのかを、多様多角的に議論しました。その一連の議論、基調講演、シンポジウム、分科会などを通じて得た知見のいくつかについて、ここでは大会提言としてまとめました。



■ こどもは都市環境改善の要、こどもにやさしいまち (CFC) は、みんなにやさしいまち

こどもにやさしいまちや、居場所づくり、都市デザインを進めていく時、こどもたちの存在と影響は大きく、様々で複雑な課題の解決に対する触媒として働いてくれる要となります。都市環境の改善は、通常、複雑で他分野に渡り、利害も相反することが多いのですが、その目的がこどもの成育環境の改善である場合、こどもが触媒となって、様々な事柄がひとつの方向に向かい、優れた成果が得やすいことが多くの都市事例からわかってきています。つまり、こどもたちのためにやさしいまちをつくと、それは高齢者や障害者も含め、すべての人にとってやさしいまちになることとなります。

■ こどもにやさしいまち (CFC) 構築のための多分野・多要素の連携

「こどもにやさしいまち」や「居場所」の構築には、あそび、教育、保育、医療、福祉、生活、文化、余暇など、多様な分野を横断する連携が必要であり、更に、環境や施設、行政施策やシステム、経済的支援・助成・予算、あるいはそこに関わる人々・コミュニティーなど、様々な要素の融合、協力がとても大切です。そして、これらの連携が実現することで、初めて、新たな課題が発見され、多種多様な居場所の構築が可能となること、今まで未解決であった課題への新しい解答の発見の可能性が広がることを、皆が共有する

必要があります。

また、このような専門横断型で、異なる立場で連携していくべき CFC や CFUD: Child Friendly Urban Design (こどもにやさしい都市デザイン) こそ、こども環境学会という分野横断組織が更に積極的に取り組むべき大きな課題のひとつなのではないかと考えます。

■ こどもにやさしいまち (CFC) における人的環境と物理的都市環境の改善、トップダウンとボトムアップ双方の施策・活動の重要性

ユニセフ型の CFC (こどもにやさしいまちづくり CFCI: Child Friendly City Initiative) では、当初、途上国を中心に活動が始まったこともあり、こどもの権利・参画や健康福祉についての環境改善に重きが置かれてきましたが、今後は、人的なソフト環境と共に物理的都市環境の改善を行うことも大切です。

また、従来、CFC ではコミュニティーを主体とした民間の人的支援によるボトムアップ型の活動が主体でしたが、今後は、まち全体の都市環境の改善を考えると、CFUD のような行政トップの英断によるトップダウン型の都市施策の推進も、同時に重要であると考えます。そして、そのためには、両者をつなぐフルタイムのマネージャーの存在が不可欠であり政治家の協力も重要です。それらの連携がうまくいくと、低予算の小さなステップでも、それが繰り返され

ることで、大きなインパクトを生むことができます。

■ こどもにやさしい都市デザイン (CFUD) 推進のための評価指標、都市改善の目標、改善対象の環境

CFUDによる都市環境の改善を具体的に進めていくためには、評価指標や都市改善の目標、改善対象の環境などが、重要となります。都市環境の評価指標としては2つあり、ひとつは多様な体験ができる多様な居場所があるかという点、もうひとつは、その居場所へのこどもが自主的にアクセスできるかというものです。また、CFUDの都市改善の目標は、大きく3つあり、それらのバランスが各都市の事情で異なることが指摘されました。具体的に言うと、1つ目の目標は、こどもの権利・参画、健康・福祉等の向上、2つ目は、SDGsに代表されるような持続可能なまち、そして3つ目には、人口動態や経済の改善・地域活性化が、CFUDにおける都市環境の改善の大きな目標になっています。また、CFCが取り組むべき改善対象の環境としては主に3つがあり、1つ目は、こどもに関わる公共、民間などの支援サービス、2つ目は、住まいや家庭、近隣の居住地域環境、3つ目が、公共空間の環境の改善であり、特にこの都市の公共空間の環境改善こそが、CFUDが、もっとも積極的に取り組むべき都市デザインの対象となります。

■ 21世紀型教育の希求：意味創造を育む成育環境の提供とそれを見守る人的環境の育成

こどもたちの成育環境は今、社会の変化と共に大きく変容してきています。こどもたちの身体の問題では、からだ自体よりも心の問題が大きくなっていること、幼児期の自然体験など身体活動が減少し、心身の能力が低下していること、

群れであそべなくなっていること、新しいメディアとしてのインターネットやスマホが持つ課題への対応と有効活用の模索、AIへの対応等、社会は複雑性を増して未来の予測が難しくなっています。そして、そのような時代を、こどもたちが生き抜いていく力を身につけるためには、今までのルールを教え守るという20世紀型の教育から離脱し、こどもたち自らがあそびにより自由に意味創造を行える21世紀型の新しい教育が求められています。そしてそれを実践していくためには、我々大人は意味創造の行為を誘発するアフォーダンス豊かな環境を用意する必要があることと、そこでこどもたちが自らの力で意味を発芽していく過程を、温かく見守る人的環境の醸成もとても大切であると考えます。それを家庭環境、教育環境、都市環境でも実践していくことが求められています。

■ 【地域創生】：持続可能なまちづくりとは、次世代づくりである

持続可能な地域創生のまちづくり目的は、最終的には、地域にとっての次世代育成であり、エリアマネジメントやプレスメイキングの目標も、都市の中に次世代を担うこどもたち、若者にやさしい多様な居場所をつくっていくことではないでしょうか。地域やまちがこどもたちと若者を育てる、あるいは、共に成長していくこと、それが、こどもたちや若者たちの地域への愛着に繋がり、地域のコミュニティ活動への参画にもつながり、将来、彼ら自身が地域を育てる主役となっていくものと考えます。このような次世代育成の持続可能なまちづくりこそが、CFC、CFUD、SDGsの大きな目標ではないかと考えます。

(大会実行委員長：佐久間治)

